

○中島 修、黒川 香、野口三四郎、畔田浩一、
新浪千加子、麻生智子(国立熱海病院、消化器科)、
板倉弘重(国立栄養・健康研究所)、
池川哲朗(金沢大学生命科学)

〔目的〕深海鮫の一種、スクアルス科の鮫の肝臓から抽出した高純度のスクワレンの製剤(以下サメミロン、日誠マリン工業株式会社製)についてインターフェロン(IFN)誘起作用、誘起されたIFNの種類、IFNの血中動態並びに臨床薬理学的特性を明らかにするとともに、慢性B型肝炎に対する臨床効果をIFNおよび肝用剤と比較検討する。

〔方法〕サメミロンは一日投与量6錠(1錠に250mgの純度99.8%のスクワレンを含有)を投与した。IFNは、Dainabot社のRIAキットで測定した。また、臨床効果の判定には、サメミロン6錠を分与して食後に投与し、定期的に肝機能検査を施行した。

〔成果〕サメミロンを投与したときに誘導されるIFNはβ型のみであった。投与1時間後にIFN濃度は最高値を示した。臨床薬理学的解析で得られた半減期は1.802時間、AUCは28.95であった。一方、臨床的には、B型肝炎ウイルスのHBeの抗原のSeroconversion rateでみると、サメミロン33.3%、IFN-α10.0%、IFN-β8.3%であった。

〔結論〕サメミロンはβ-IFNを誘導し、B型肝炎患者の血中HBe抗原を消失させる作用の強いことが判明した。他の抗ウイルス剤との併用により一層臨床効果を高めることが期待される。また、投与期間中、自覚的、他覚的な副作用は認められなかった。